

KIF NEWS

2008.5

No. 7

かながわ国際交流財団
Kanagawa International Foundation

ケイアイエフ ニュース

特集 2008年度事業紹介



民際協力基金 助成申請・提案募集、助成・協働事業決定.....	8
[KIF Report] 多文化子ども支援フォーラム、第3回21世紀ミュージアム・サミット他	9
ジョー・オダネル「ヒロシマ・ナガサキ」写真展 他.....	12

特集 2008年度事業紹介

*印は湘南国際村学術研究センター事業、(新)は今年度開始の事業

1 県民の国際交流・協力活動の支援

県民の国際交流・協力活動を情報、ノウハウ、資金面から支援する取り組みを行います。

・ かながわ国際協力基金

国際協力や多文化共生などの活動を行う NGO に資金助成を行います。助成申請の受付は、春（4～5月）と秋（10～11月）の2回。また、地域の国際化に関わるプロジェクトの企画を公募し、採択された事業を財団と協働で実施します。

・ 情報提供・相談、情報誌発行

ホームページでの情報発信、国際交流・協力などについて情報の収集、提供、相談を行います。また、ニュースレター『KIF NEWS』（隔月）を発行します。

・ 会員交流

財団会員を主な対象に、米国・メリーランド州からの招聘講師

との交流会や映画会などのイベントを開催します。

・ 国際学生会館、国際研修センターの運営

私費留学生の長期宿泊施設（横浜市旭区、相模原市）の運営と、神奈川県が開発途上国から受け入れる技術研修員の宿泊・研修施設（横浜市旭区）の運営を行います。また、各種研修や、研修員・留学生と地域との交流事業等を行います。



2 国際性豊かな人材の育成

次代を担う青少年を中心に、世界で活躍できる国際人材の育成のための取り組みを行います。

● 国際人材の育成

・ スタディツアー

アジア地域等で NGO 等が行う国際協力活動の現場を訪問する研修派遣を実施します。



・ 英会話講座

神奈川県との友好提携先であるアメリカ・メリーランド州から招聘した講師を中心に、4～9月の春期と10～3月の秋期の英会話講座を実施します。



・ 地球市民学習支援

「アジアの家」をテーマとしたパークラフトの開発、スーツケース教材「カレーキット」の貸し出しを行います。また、学校等での学習プログラムの企画協力、講師紹介、講師派遣などを行います。



・ 国際人材育成指導者養成講座*

地球市民学習や多文化共生等の取り組みに必要な専門的な情報や具体的なノウハウを提供するセミナーを開催します。

・ 国連大学グローバルセミナー*

国連大学と協力大学との連携により、学部3、4年生と大学院生を主な対象に、世界情勢に即したテーマについて認識と理解を深めることを目的とした、日英2カ国語を使用する4泊5日のセミナーです。将来、国際機関、国際NGO、国際学術研究機関等国内外で活躍できる国際人材を育成します。



・ 湘南国際村インカレ国際セミナー*

首都圏の大学と連携し、学部1、2年生を主な対象として、「東アジア共同体」に関するテーマについて、学際的、多角的な視点から議論を進める2泊3日のセミナーを実施し、東アジア共同体の問題意識を高め、アジアと日本の関係に理解をもつ国際人材を育成します。



・湘南国際村高校生国際教育支援（出前事業）*

高校生が地域と世界へ興味・関心を持つよう、財団が培ってきた国際教育のノウハウおよび大学・NGO等のリソース・パーソンとのネットワークを活用し、県内高校に講師を派遣することで、国際教育を支援します。



・湘南国際村青少年国際セミナー（K-PIT）*

県内の高校生世代を対象に、参加型学習（ワークショップ）の手法やグループ・ディスカッションなども取り入れて、世界の現状を知り（国際理解）、国際社会で生きる力（多・異文化理解マインド、思考力、実践力）を備えた人材を育成するためのセミナーを実施します。



・地域国際人材育成支援*

県内高校を対象として、学校のカリキュラムに組み込む年間を通じた継続的な国際理解プログラムを提供します。講演会、ワークショップ、宿泊型セミナーなど多様な学びの形式と豊富な講師陣をそろえ、地域における国際的な人材の育成を支援します。

・（新）若手社会人リーダー養成セミナー*

現代社会が直面する諸問題に対し、若手社会人らが人間性の原点をふりかえりつつ、あるべき社会像を思索し、語り合う場を提供することで、いつの時代にも通じる哲学、倫理などを身につけ、「真の国際人」として広く社会に貢献する人材を養成します。

・（新）かながわ非営利組織実務家養成セミナー*

神奈川県内の中小非営利組織の実務家および今後非営利組織の設立を考えている人たちを対象として、事業評価手法やファンドレイジング、組織マネジメントなどキャパシティ・ビルディングの機会を提供し、全体の能力向上を目指します。

● 国連人材育成

・国連ESD（持続可能な開発のための教育）ネットワーク

「国連持続可能な開発のための教育の10年」に合わせ、ESDに関連する分野の市民活動関係者や教育関係者、県民を対象に、ESDの意義に対する理解を深め、活動・連携を促すための連続学習会などを開催します。



・国連関連国際人材育成

模擬国連委員会の協力を得て、青少年を対象にしたセミナーを行います。参加者一人一人が世界各国の国連大使の役をつとめて国連会議を再現し、実際の国連会議で扱われている問題を話し合うことによって、国際問題の難しさを理解し、解決策について考えます。



3 多文化共生の地域社会づくり

地球市民意識の高揚や多文化共生社会の実現に向けた取り組みを行います。

● 多文化共生社会調査研究

・日本語学習調査

県内の在住外国人に対する日本語学習支援の充実を目的に、関連機関への調査を行い、今後の望ましいあり方について検討します。調査・検討の結果については、報告書を発行し、フォーラムを実施して広く共有し、関係機関の連携・協力を促します。

● 多文化子ども支援ネットワーク

・多文化子ども支援ネットワーク会議

外国籍児童生徒の教育の課題解決、サポート体制の拡充を図るため、NGOと学校、県関連機関等とネットワークを築き、問題解決に向けた具体的な議論の場を持ち、情報を共有し、具体案を検

討します。2回の会議開催とフォーラムの開催を予定しています。

● 多文化理解支援

・あーすフェスタかながわ（5月17日（土）・18日（日）開催）

あーすぷらざとリリスを会場に、神奈川県と県内の民族団体、NGO等と協力し、「みんなで育てる多文化共生」をテーマにシンポジウムや民族芸能ステージ、ワールドバザールなどから成るフェスティバルを開催します。



・世界の文化セミナー

各国料理教室、中国の太極拳、南米のケーナ、英語でヨガなどの文化講座を行います。詳細はお問合せください。



・日中文化講座*

中国人・日本人講師による中国の文化、教育、政治、経済、社会など幅広い分野の講演を通じて、日本と中国の現状と将来を考えながら、中国文化への理解や日中両国の市民レベルでの相互理解・多文化共生を促進するためのセミナーを実施します。



4 学術・文化交流の促進

学術・文化交流を通じ、地球規模の課題の解決に向けた地域からの提案を、県民をはじめ国内外に発信する取り組みを行います。

● 国際学術・文化交流

・第3次かながわ円卓会議*

グローバル化の諸問題を考えた第1次・第2次「21世紀かながわ円卓会議」の成果と総括を踏まえ、21世紀の地球社会の安定と平和のために、市民、企業、地域、国家等すべての社会的アクターが今後どのように取り組むべきか、その方向性について討議します。

・企画研究・出版*

財団事業の充実を図るため、財団が設定するテーマに基づき学識者等で構成する研究会を設置し、研究・調査活動等を行います。また、学術・文化交流事業の成果を広く周知するため出版します。



● 地域学術・文化交流

・湘南国際村フォーラム*

「持続可能な社会」をテーマにして、湘南国際村にある研究機関の知的資源を最大限活用することで、自然・人文・社会科学の枠を超えた学際的な討議を行うフォーラムを開催し、分野を越えた研究者等の交流を促進します。



・湘南国際村アカデミア*

総合研究大学院大学、地球環境戦略研究機関など村内機関の研究成果を分かりやすい形で紹介することで、生涯学習活動を支援する講演会を実施します。



・三浦半島エコミュージアム*

持続可能な地域づくり・まちづくりを進めていくため、「三浦半島エコミュージアム構想」に基づき、県横須賀三浦地域県政総合センターとの共同事業により、三浦半島のエコミュージアム活動団体のネットワーク形成を促進するための事業を実施します。

・(新)三浦半島スタディツアー*

三浦半島には、日本の開国の地である浦賀をはじめとする歴史文化遺産や、大楠山・小網代の森等に代表される自然環境も残っています。こうした地域資源の宝庫である三浦半島について、座学と体験学習を通して学ぶための宿泊型ツアーを実施します。



5 あーす ぷらざの運営

あーす ぷらざ(地球市民かながわプラザ)は、こどもの豊かな感性の育成、地球市民意識の醸成、国際活動の支援の3つの目的のもと、1998年に開館した施設です。当財団は、あーすぷらざの指定管理者として、施設の運営を通じた様々な事業を行っています。

● 常設展示室

5階には、こどもの国際理解展示室、国際平和展示室、こどもファンタジー展示室の3つの展示室と上映会等を行う映像ホールがあります。

・ ボランティアスタッフ制度の運営、校外学習の受入

常設展示室の展示案内や地球市民学習プログラムの実施を担うボランティアスタッフの登録制度運営、学校等への学習プログラムの提供を行います。



・ 館内ガイドツアー (リトル・アドベンチャー)

常設展示室などの施設を案内し、展示の紹介につながるクイズやアクティビティを行います。



・ ワールドカルチャー・デイ

毎月、世界の特定の地域の暮らしや文化への理解を深めるイベントを開催します。「おしゃべりワールド」や「民族楽器のワークショップ」、「エスニック料理と暮らしのセミナー」などを行います。



・ あーすぷらざ探検隊

6月から12月まで、小学1年生から4年生までの子どもたちが一緒にあーすぷらざを探検し、毎回の体験を通じて発見したこと、感じたことをまとめ、最後に発表会を行います。



・ あーすシアター

毎月、映像ホールで国際交流や国際理解、多文化共生などについての映画を上映します。

● 情報フォーラム・映像ライブラリー

2階には、国際交流・協力、国際理解、多文化共生などに関する情報を提供する情報フォーラムと映像ライブラリーがあります。

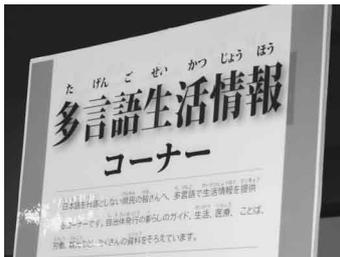
・ 情報フォーラム運営

地球市民学習教材や日本語学習の資料、国際交流・協力活動などに関する図書資料、雑誌、ニュースレター等を収集し、情報提供を行います。



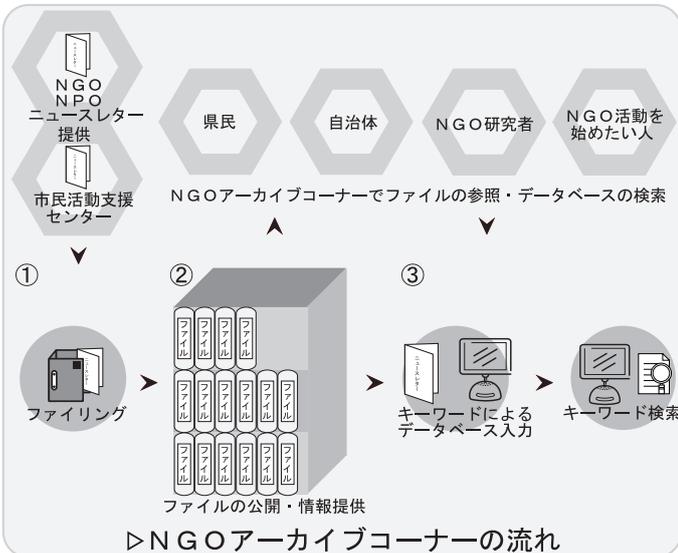
・ 多言語生活情報センター

自治体等が発行する多言語生活情報を外国籍県民に確実に届けるため、自治体等から多言語資料を収集・整理し、関係機関等へ情報発信します。



・ NGO 情報アーカイブセンター

新たな NGO 活動を生み出すサポートをするため、県内外の NGO 等が発行するニュースレターやチラシを収集し、長期間保存するとともに、データベースを構築し、情報検索をサポートします。



・ 外国人教育相談

外国人の教育にかかわる相談を受け付けます。中国語、スペイン語、タガログ語によるサポートもあります。



・ 映像ライブラリー運営

「国際協力」「環境」「平和」等のテーマに関する図書の収集・貸出、及び映像資料の視聴サービスを行います。



● 企画展示室等の施設

3階企画展示室等において、地球市民学習を深めるための事業を行っています。

・ 企画展

① ジョー・オダネル「ヒロシマ・ナガサキ」写真展6～7月

佐世保、福岡、広島、長崎などの終戦直後の状況を米軍海兵隊のカメラマンが撮影した写真展を開催します。



② 地球巡礼展（仮題）9～10月

世界の様々な地域における人々の祈りの姿などを撮影する野町和嘉さんの写真展を開催します。

③ 地球の食卓展（仮題）2～3月

『地球の食卓－世界24カ国の家族のごはん』（TOTO出版）に掲載されている写真を題材に食糧や日常生活を紹介する企画展を開催します。

・ 地球市民ひろば

地球規模の課題についてのセミナーを年5回、「地球共生社会とは（仮題）」をテーマにしたフォーラムを秋頃に開催します。



・ 地域の国際化を考えるセミナー

県内で多文化共生の地域社会づくりに向けた活動ができる人材を育成するセミナーを開催します。

・ カナガワビエンナーレ国際児童画展

絵画を通じて、神奈川の子どもたちに世界を、世界の子どもたちに神奈川を紹介する絵画展を2年に1回開催しています。今年度は、来年に開催される第15回展に向けて作品募集や審査会などの準備を行います。

・ 市民団体（NGO等）への活動サポート

市民団体から企画を公募し、会場提供・広報協力などの支援を行います。また、市民団体への情報提供や、相談対応、活動場所の提供を行います。

● 県内地域への展開（アウトリーチ）

あーすぷらざの資源やネットワークを活かし、地域で事業を展開します。

・ 世界のこどもの暮らしボックス

世界各地の子どもたちの暮らしが見える国際理解のためのボックス教材を開発し、小中学校等への貸し出しを行います。

現在、タイとネパールのボックスがあり、学用品や遊び道具など現地の子ども達の身の回りに入っています。



【内容】

民族衣装、小学校教科書、文具、制服、遊び道具、現地の子ども達の絵画、解説書、授業の展開例、ワークシート等

・ あーすキャラバン隊

県内の小中学校等に出向き、国際理解を深めるワークショップなどを提供します。



・ 多文化かながわスタディツアー

県内の外国人の生活の場や、外国人支援に関わるNGOの活動現場を訪ねるスタディツアーを行います。



● 広報・情報発信

・ あーすぷらざ壁新聞（年3回発行）

あーすぷらざの施設、各種事業や地球市民学習に役立つ情報を紹介するポスター型の広報紙を県内の小・中・高校や関係機関へ配布します。



・ かながわ地球市民メールマガジン（月2回発行）

あーすぷらざの事業や県内のNGO等が実施するイベント情報、ボランティア募集情報などの最新ニュースを配信します。

かながわ民際協力基金

Kanagawa People to People Cooperation fund

2008 年度春期 助成申請・協働事業提案募集

【助成事業】

○下記の分野で、主に神奈川県内の NGO・ボランティア団体等により行われる事業の助成申請

- ・海外の開発途上地域での福祉・生活環境の向上、環境保全、教育、人権保護など
- ・県内の外国人住民と共に生きる地域社会の実現
- ・国際協力や外国人住民支援などの担い手育成
- ・スタッフ研修、プロジェクトの事前調査、国際会議への出席など、NGO の組織の自立や活動の充実を図るための事業

○事業実施期間：

2008 年 10 月 1 日以降、1 年以内に開始される事業

○助成上限：

50 万円（団体活動充実事業）～ 300 万円（海外協力、国内協力、担い手育成）

【協働事業】

○下記の分野で、かながわ国際交流財団と NGO が、それぞれのノウハウを持ち寄り、企画段階から協力して行う事業の提案

- ・外国人住民支援のための活動
- ・国際協力・外国人住民支援のための担い手育成

○事業実施期間：

2008 年 10 月 1 日以降に開始され、1 年以内に終了する事業

○経費負担：

財団と NGO が、協議により双方の負担金額を決定します。財団の経費負担の上限は 100 万円です。

【申請受付期間】

2008 年 4 月 1 日（火）～ 5 月 31 日（土）

★「かながわ民際協力基金」について紹介した資料をお送りします。下記あてにご請求ください。詳しい内容は当財団ホームページでも見ることができます。

<http://www.k-i-a.or.jp/kokusai/ngo/kikin/>

【問合せ】

（財）かながわ国際交流財団 国際協力課（担当：成田）

TEL: 045-896-2964 FAX: 045-896-2945

E-mail: minsai@k-i-a.or.jp



提供：ソルト・バヤタス・ファウンデーション

2007 年度秋期 助成・協働事業決定

事業名	第 83 号助成事業 在日フィリピン人の地域生活支援・共生事業 (2) (継続事業)	第 84 号助成事業 第 7 回移住労働者と連帯する全国フォーラム・かながわ 2008	第 85 号助成事業 グアテマラ国における自然資源管理のための先住民組織強化プロジェクト	第 86 号助成事業 フィリピンごみ山周辺地域における教育支援プロジェクト (2) (継続事業)
団体	カワヤン	第 7 回移住労働者と連帯する全国フォーラム・かながわ 2008 実行委員会	開発と権利のための行動センター	ソルト・バヤタス・ファウンデーション
事業分野	国内協力	国内協力	海外協力	海外協力
助成額	1,691,000 円	1,800,000 円	300,000 円	2,333,000 円
事業概要	地域のフィリピン人の母親を中心に、自助、互助活動をさらに活性化し、孤立し、生活課題を多く抱えたフィリピン人との出会いを強化して生活ネットワークを広げるとともに、地域社会への参加活動を拡充し、多文化共生社会の創造に寄与する。	外国籍住民人口の増加に伴い、その人権・生活等の支援の必要も益々大きくなってきている。このため全国各地で活動する NGO が隔年に全国フォーラムを開いて啓発と情報交流、アドボカシーとネットワークの強化をはかってきた。2008 年には、神奈川でこれを開催する。	自然保護区制定が進むグアテマラ東部イサバル県において、先住民コミュニティと地域の住民アソシエーションを対象に、住民主体の自然資源管理、自然保護区管理を実現するための組織強化を目指した活動を実施する。	フィリピン国メトロマニラのごみ山周辺地域において、スカベンジャーの家庭およびそれと同程度に困窮した家庭の子どもに対し教育支援活動を行う。

KIF Report

財団が行う様々な事業を報告します

2月1日～3月16日 ㊀-㊀ ㊀5㊀

かながわ環境写真展

Think Globally, Act Locally

UNEP 世界環境写真展と、あーすぷらざで環境にまつわる写真を募集した公募展を開催し、世界の環境問題・身近な環境問題の2部構成で実施しました。「親子連れの参加者も多く、子どもたちに責任ある環境を伝えていかなくてはと考えるきっかけになると思いました」「撮影された方の心が伝わってきました」「持続可能な社会の実現を目指し、自分たちに出来ることは何か考えたい」など、多くの方から貴重な意見をいただきました。



2月9日 ㊀-㊀ ㊀5㊀

地域の国際化を考えるセミナー

東京外国語大学多言語・多文化教育研究センタープログラムコーディネーターの杉澤経子さんの基調講演の後、外国籍住民支援のボランティア活動にたずさわる3人のパネリストから、ボランティアの現状や今後の課題などを、それぞれの立場から話していただきました。パネリストには、多文化まちづくり工房の早川秀樹さん、港北国際交流ラウンジの向晶子さん、マルチカルチャーチルドレンの会の大工廻チアゴ実さんに来ていただきました。今回は幅広い年代の方に参加していただき、参加者同士の交流も見られました。



2月25日～3月3日 タイ

2007年度 タイ・スタディツアー

大学生参加者10名が、2008年2月25日（月）から3月3日（月）にかけて、7泊8日でタイのバンコク、アユタヤ、ナコーン・シー・タマラートを訪れました。今年度は、「住民参加型地域開発」「社会的弱者支援」をテーマに、NPO法人FHCY アジア障害者パートナーズの活動地やアジア太平洋障害者センター（APCD）などを訪問しました。



KIF Report

財団が行う様々な事業を報告します

2月17日、3月22日、29日 なか区民活動センター、あーび 355

「持続可能な社会をつくる」連続学習会 学ぶ・つながる 持続可能な社会をめざして

2005年から2014年からの「持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」を機に、今年度から、「持続可能な社会をつくる」連続学習会が開始されました。ESDでは、環境破壊など、地球社会の持続への危機感から、その流れを止め、持続可能な社会を創り出していく「人」づくり、そのための教育の存在が注目され、環境・経済・社会を支えるさまざまな立場の人びととつながりながら活動することが重要視されています。2月から3月にかけて行われた学習会では、途上国の問題と日本の問題、環境教育とメディアリテラシー教育という異なる教育分野、NPOと企業の連携など、さまざまな「つながり」をテーマに考えました。この学習会は、2008年度にも引き続き行う予定です。

2月17日（日）

第1回「南の国から学び、日常を変える」

ゲスト：丸谷士都子さん（地球の木理事長）、上條直美さん（開発教育協会常任理事、立教大学ESD研究センタープログラムコーディネーター）



3月22日（土）

第2回「持続可能な社会をつくる教育のエッセンス～環境教育とメディアリテラシー教育の立場から～」

ゲスト：羽角章さん（県立川崎高校教員、新しい環境学習をつくるネットワーク代表世話人）、松田ユリ子さん（県立相原高校図書館司書、かながわメディアリテラシー研究所世話人）



3月29日（土）

第3回「南太平洋ソロモンと日本で考える『持続可能な社会』」

ゲスト：伊藤健治さん、下久禰愛さん（《NPO法人》APSD）、鵜田穂積さん（コスモ石油株式会社環境室長）



3月2日

あーび 355 5階 映像ホール

日中文化講座 世界が認めた中国シネマ ～チェン・カイコー陳凱歌、チャン・イーモウ張芸謀か ジャ・ジャンクーら賈樟柯まで～

第15回目を迎える今年度の日中文化講座は、講師に中央大学文学部教授の飯塚容さん、オフィス北野プロデューサーの市山尚三さんをお招きして、近年、世界的に注目を集めている中国シネマの魅力に迫りました。

飯塚さんには90年代の中国シネマを張芸謀監督の作品を中心として、市山さんには第6世代と呼ばれる新世代の監督、特に2006年度『長江哀歌（エレジー）』でベネチア国際映画祭金獅子賞グランプリを受賞した賈樟柯監督に注目し、それら中国シネマから垣間見える現代中国社会についてご講演いただきました。

当日は78名もの方々にご来場いただき、みなさま熱心に耳を傾けておられました。



講演の様子

3月16日 ㊫ ㊫ ㊫

「外国につながる子ども」のサポートを考えるフォーラム ～高校進学・入学後をどう支えるか

多 文化共生教育ネットワークかながわ（ME-net）と共催でフォーラムを開催しました。第1部ではME-netの高橋徹さんから「外国につながりを持つ子ども支援のためのネットワーク会議」についてお話をいただき、第2部では大阪府教育委員会児童生徒支援課の小川指導主事から大阪における高校進学・卒業支援の取組みについてお話をいただきました。第3部では、全日制・定時制高校での教育コーディネーターの活用、高校での進路選択のサポートについて、事例報告をもとに議論しました。教育関係者、行政関係者など約70名の方に参加いただきました。



フォーラムの様子

3月21日～22日 湘南国際村センター

第3回 21世紀ミュージアム・サミット 「新たなる美術館像を求めて」

美 美術館が社会の変化に対して主体的に何ができるかを考えることを目的として、日本経済新聞社と共に、海外の美術館における多様な取り組みを紹介する「21世紀ミュージアム・サミット」を開催してきました。第3回目今回は「新たなる美術館像を求めて」をテーマに、中国美術館館長の范さん、ケ・ブランリー美術館前館長のヴィアットさん、アジア協会理事長のデサイさん、スコットランド・ナショナル・ギャラリー近現代美術館長のグルームさんによる基調講演と、国立国際美術館長の建畠館長を議長に日本の主要な美術館長等15名を交えた総勢20名での円卓会議が2日間にわたり行われました。文化への関心が高まる中、180名を超える参加者が集い、大盛会となりました。



3月21日～22日 湘南国際村センター

湘南国際村青少年国際セミナー(K-PIT) ～世界の入り口に立とう～ Aコース：国境を越えるとは？ Bコース：世界の問題をアフリカから考える

K-PITは神奈川県内の高校生世代を対象とした国際学セミナーで、複雑・多様化する国際社会を生き抜く力を養うことを目的としています。今回のK-PITでは2つのコースを実施しました。

Aコースでは「国境を越えるとは？」をテーマに14名の高校生が参加し、「移住」や「難民」などをキーワードとして人の移動という視点から国際問題について考えました。

Bコースでは「世界の問題をアフリカから考える」をテーマに23名の高校生が参加しました。両セミナーとも、大学の研究者、NGO、大学生アドバイザーなどが一体となり、楽しみながら真剣に話し合う3日間を過ごしました。次回のK-PITは夏ごろ開催予定です。

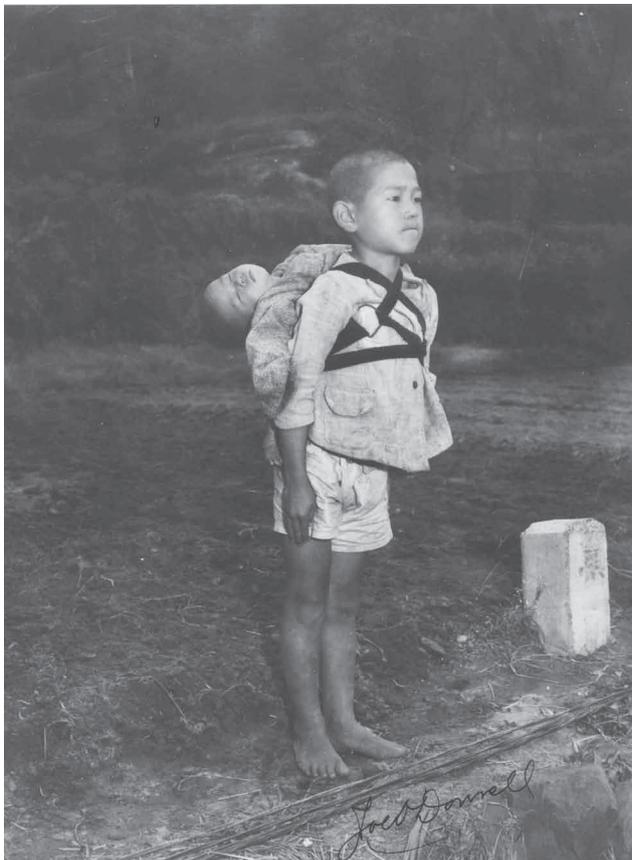


セミナーの様子

6月7日(土)～7月13日(日)

ジョー・オダネル 「ヒロシマ・ナガサキ」写真展

終戦直後の佐世保、福岡、広島、長崎などの空襲による被害状況を記録した米海兵隊カメラマンの非公式写真約50点を展示します。長崎にて、死んでしまった幼い弟を茶毘に付すため、焼き場の前で唇をかみしめて順番を待つ兄の姿は(写真)、オダネル氏の心に忘れられない記憶として刻み込まれました。“空襲による被害状況の記録”は、時を超えて世界の人々の心を打つ記録となっています。オダネル氏は、長崎に原爆が投下された日、奇しくも2007年8月9日、天に召されました。



■日時

2008年6月7日(土)～7月13日(日)
10:00～18:00 (月曜休み)

■場所

あーすびらざ 3階 企画展示室

■参加費

無料

■問合せ

学習サービス課 (担当: 澄田(すみだ))
TEL: 045-896-2899
FAX: 045-896-2299
E-mail: gakushu@k-i-a.or.jp

読者のみなさまの投稿募集!

読者のみなさまからの投稿コーナーを始めました。

- 自分がしている国際協力・国際交流の活動について
- ボランティア活動をしていて日ごろ感じていること
- 会員の方は、「会員になったわけ」 etc.

一方的に発信するだけでなく、読者のみなさまからも機関紙についての意見や感想をいただきたいと思います。双方向に語り合う場として、紙面を活用していきたいと考えています。ぜひみなさまの「声」をお寄せください。

【投稿先】原稿をメールかFAX、郵送でお送りください。

FAX: 045-896-2945 E-mail: minsai@k-i-a.or.jp

〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-2-1 かながわ国際交流財団 情報紙編集係

●かながわ国際交流財団(略称「KIFJ」)は・・・

地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いを越えて、人間らしく暮らせる社会の実現のため、人と人のつながりを大切にした国際交流・国際協力、地球市民意識の高揚と多文化共生社会の実現、国際的な人材の育成、学術・文化交流並びに世界に向けた情報発信などの様々な事業を展開しています。

●KIFサポーターになりませんか?

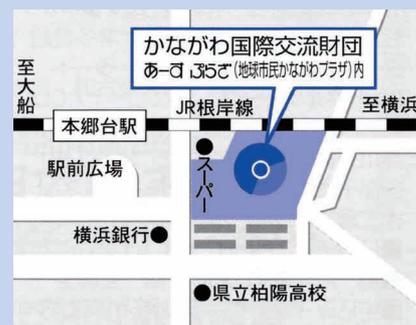
財団の活動を支援して下さるKIFサポーター(賛助会員)会員を募集しています。会員になると...

- ・財団が主催する各種催しを掲載した情報紙をお送りします。
- ・当財団の出版物の割引サービスが受けられます。
- ・会員の方を対象にした催しへ招待します。
- ・会員証の提示で、提携エスニック・レストランの優待サービスが受けられます。

*会員登録をご希望の方は、財団までお問い合わせ下さい。振り込み用紙など関係資料をお送りします。

★当財団は、2006年4月より、神奈川県から指定管理者の指定を受け、あーすびらざを運営しています。

★このほか、神奈川県国際研修センターと神奈川県国際学生会館を運営しています。



JR根岸線「本郷台」駅改札出て左すぐ



バスで越しの場合

JR横須賀線「逗子」駅南1番乗り場より、16または26系統「湘南国際村」行きバスに乗り、「湘南国際村センター前」下車。所要時間約25分 料金340円

かながわ国際交流財団ニュースレター 2008年5月1日発行 第7号

発行/財団法人かながわ国際交流財団(本部)
〒247-0007
横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 あーすびらざ1F
TEL: 045-896-2626 (代表)
FAX: 045-896-2945
URL: http://www.k-i-a.or.jp
E-mail: minsai@k-i-a.or.jp
印刷・DTP/有限会社 青史堂印刷

広告を掲載しませんか?

各ページに広告を掲載するスペースを設けています。県内で国際協力・国際交流の活動を展開している市民活動グループをはじめ、図書館、公民館、パスポートセンター、県立高校、市町村国際担当部署、市町村教育委員会、市町村区役所、県庁、会員などに配布しています。発行部数は6,000部です。どうぞお気軽にお問い合わせください。

編集 後記

最近、中国産だからと決め付けてしまうのはいけないと思いつつ、つい中国産の食品よりも国産のものを買うようになってしまいました。でも、国産を買うことで日本の農業を盛り上げることににもなるし、海外から運んでくるよりもCO2が少なくて済むと自分に言い聞かせている。そんな時、日本向けの作物を作っている中国の農家は、生活が苦しくなっているのではと感じた。どちらの選択が正しいなんてことは言えない気がした。(も)